

ものを書くという事

十日町高等学校田沢分校「国語教室」より
富永ひさお

私は自分でものを書く事が好きだ。それで時々生徒にも書かせる。もちろん単に書かせるものでなく、彼等が何を考え毎日を生きているかを知るためである。そして時々意外な発見に驚き、自分に馬力を掛ける。とにかく私は自分の職業は彼等の實態を知つて、自分も勉強することだと思つてゐる。

以下二文は私が手紙文を書かせた中から一通、「昨日の私」と題を考へて書かせたもの一文である。これからの文章の巧拙はともかくこうした生徒に私は無限の愛着を感じる。そして私自身の鞭としてゐる。

山々はもう冬を待つてゐる今日、姉さんと良く一緒に繪を畫いた庭のポプラの木も、一風毎にカサカサと音を立て風に輪舞して遠くの方に飛んで、今ではもう四五枚の葉が淋しく小枝にゆれてゐます……姉さんがお盆に來た時寫つた寫眞が、私のアルバムの中で過日の思い出をよみ返らせます。

姉さんも美容師と云う職に就き、早三回目の東京での秋ですね、家の人はみんな元気で働いてゐるから安心して下さい。俺は定時制をやめていません。此の間(サボつて)先生に注意を受けました。しかし先生はこんな俺にも俺達の事を思つて下さつてゐると氣づいた時は、非常にうれしかったです。俺は四ヶ年かならずやります。俺は四ヶ年かならずやります。俺は四ヶ年かならずやります。

昨日の私
四年 山田勝良
山々は美しくかつた。黄色と赤に点々と色どられたあたり一面の風景が、幼い時の私の目を再び取り戻したような氣持になつて、眼下に開けた美しい風景に胸をおどらせた。よし、今日はがんばるぞ。目の前のたききを見ながらつぶやく。兄貴と私と五

人兄弟の一番終りの方の中學一年の直春と三人で細い通りを兩側の木々の小枝に突きまわら、足もとに注意して進む。「一日何回も出したらいいか決めておいてやろうじやねえか。」私が云うと兄貴が「一日に十回さう。屋前に四回屋敷つてから六回だな」そう決まればしめたもの、私はまた四たびはしよつて出た。

せか／＼するところ、なことな／＼進む。道は少さな木々を切り開いて作つた道なので、背負つてゐるたききがひつかかつてまつたく怒りたくなる程である。横になつてがにの歩き方をする。本道におろして再び山道を登つて行く。直春が途中でひつくり返つて来た。「なにしてらんだ。龜の子をひつくり返したみたになつて……」私が笑いなながら引起してやる。

こんな風に氣持よく歩いてゐる時にもふつと頭に浮ぶ事がある……俺は何んにも勉強しないが良いだらうか……、と云う事である。ポケットに用意してゐた英語の單語を引き出して、目を通す。

Care Killed a Cat
と云うようなことわざが目につく。「心配は一びきの猫を殺した」猫でさえ心配の事に死んだ。「心配が一體に毒……」な程と思う。いつのまにか自分の足がのろくなり、止りそうになつてゐるの意識して再び急ぎ出す。

どうも單語カードがいけない。しかしなんだか楽しい氣もする。昼食になつた。大きな弁当だ。山に來るとどうしてこんな大めしを食うのかと思ふ。三分の二程で腹いっぱいになる。「直／＼めしが足らないかめしやろうか」兄貴が直春の顔を見ながら、にや／＼した。「えつそつにひとつらばつて見てや、しらいらねがね」直春はめしをもらいたいが、ちよつとてれくさいのでそんな事を言つてゐる。私は疲れたので口をあんまりきかない。家中の人が云つてゐることだが、私が面白くない時は黙りこんでゐるので、すぐ

詩
中一 關澤 守
山ごぼろの葉をもんでくれやと母がいつた。うれしと答へた。新しいむしろの上でこし／＼もんだ。やき芋をたべながらもめやと母がいつた。顔をあげたらみんな笑ひ出した。どうしたのかと思つたら鼻の下が黒かつた。

歳末たすけ合
いに一万円
上村賢造が寄付
上村病院の上村賢造氏はこのほど歳末たすけあい運動に協力されて、生活に困つてゐる人達に差上げて下さいと一万円を役場に寄附しました。



発行所 民館
中里村公所
印刷所 新開社
十日町

昭和31年を省みて

村長 渡辺利三

過ぎ行かんとする昭和三十一年を静かにふり返り、二、三記し、報告やらお詫びと致したい。何といつても第一に取り上げて見たいのは、一、町村合併

このことについては皆様の御協力と御協力を得たにもかゝらず、遂に大同合併ならずして、貝野の皆様に何とも申譯けない分村合併の止むなきに至つた事である。しかし乍らわれ／＼は思いを貝野住民におき、且又全村民の念願である大同合併の早期實現のため、更に／＼努力していただく御辛抱と一層の御協力をお願いしたい。昭和三十年七月より隣接市町村の御協力と、関係他

郡市の援助を得て之が促進に鋭意運動を推進して居るのであるが、本村側で一億五千万円以上の工事費を要するので、知事も實行に移したとの御考へで、種々と工夫を致して居るのであるが、年内に着手に到らぬ事は私の力の及ばざる處で村民各位に何とも申譯なく存じています。越年後は更に各位の御援助を得て必ず實現を見るよう協力する覚悟である。

今年も余すところ一週間余りとなつたが、例年歳末時には各種の犯罪が極めて多く發生してゐる實情で、これを未然に防止し、平穩な歳末であるよう次のことにお互い留意しましょう。戸締りを充分にしよう。戸締りを充分にしよう。戸締りを充分にしよう。

平穩な歳末に
今年も余すところ一週間余りとなつたが、例年歳末には各種の犯罪が極めて多く發生してゐる實情で、これを未然に防止し、平穩な歳末であるよう次のことにお互い留意しましょう。

ことしの稲作
七月の初め頃は、大變景氣よく放送されてゐた今年の稲作も、いざ米にしてみたら、昨年は米の豊作、今年もはカベの豊作だつたと茶話で過されそうだが、そこがカンジン。これから年の爲に大いに反省してみよう。

わかるそうだ。なんの如く兄貴が「勝はくたおれたげだなあ、勝はおもしろくない時は黙つてらんだ」直春に向つて「やん、笑つて見せた。直春は直春で「うんそうやんだ」とばかり同調してゐる。

青年会活動を

内部から批判する

青年会理事 富 永 久 男

一日前小柳會長から冒頭の題を賜えられた。勿論それを始めから一おいそれと引受けた訳ではない。僕にとつても尚が過ぎたから、再三断つた。だが結局は引受けさせられた。でも駄目なものはない。日、全然浮んで来ない。しかたなくこう言ひだした。そうした小柳會長の頑固な事が頭に浮んだ。その邊りから始める事にした。

中里村青年會の發足、獨立公債建設促進のための資金獲得、村民運動會、文化の日の農産物及び趣味展、植林、生活改善運動、町村合併の促進等々、数え上げればやつた事は多くあつた。それらの成果はともかくとして、北處等邊で青年會活動も腰を据えて考へてみなければならぬ時期なのではないか。

そしてそれが陰に陽に引繼がれて今日に至つていゝ。だから今日の青年會活動は極言すれば、村や公民館の行事とタイプアップしてその後に残されたものには一体何が残るのか。



60年後を夢みて

田沢中学校五町の植林 (創立十周年事業)

加しなればならない事は云う迄もなく必要であり、又最大の指標である事は論をまたない。だが私は敢えて提言したい。なせなら、そうした行事を除いた青年會独自の向上發展を期する行事が實に涼々としてゐる事を。そして更にそうしたものであつても祝祭的研修を持つて村外に旅行的にバス等を賃切つて出る行事に意外の盛況を來たす事を。

この二つの間の溝は一体何を物語つてゐるのであるのか。この事はほんの一例で、彼等は同時に矛盾した行動をしていながら、それに対する自己發見がないのである。それには戦後からの依然興味本位の慣習もさる事な

から、多くの人々の無關心無節操を指摘したい。それらが多くの者をして興味本位の場所にししか彼等の廣場を持ち得ない原因にしている。云いかえれば、そうしたところにか共通の話題を持ち得ない現代の青年の貧困なのである。

青年の目標はなく、あるものは次三男の失業と云う大きな社会的差異だけだ。が戦後十年種々の原因を、全社會が悪いと云ひ捨てる時期はもう過ぎた。どうしようとして現在日本の置かれてゐる國際立場はこ相当年代變らなれないと思わねばならない。

きもの着せ方

幼児に重ね着は禁物

寒いからといつて子供が遊びにくいほど重ね着をさせるお母さんをよくみかけますが、あれはかえつて風邪をひかせるものになります。子供は一寸動きまわると汗をかきやすいからです。満二歳をすぎたら幼児でも大人と大休同じく着せ方です。着せ方で結構です。また手や足の先なら大人より少々露出させても平氣。日中氣温があがつて大人が一枚脱ぐときは子供も一枚脱がせてやりましょう。ただし生れたての赤ちゃんは、それまでお母さんの身体の中にいたわけですから、暖かい部屋に寝かせて兩わきに湯タンポを入れます。三、四ヶ月たつた赤ちゃんなら、そろそろ自分で体温を保つ力を養つてきていますから、きものは大人より肌着一枚、ネル一枚を余計にきせる程度でよいですよ。

◎年賀廻禮は玄關先で ◎年始よせはやめよう

軌道に乗せよう

環境衛生活動に想

およそ公衆衛生の仕事は人類の生活にとつて必要不可欠のものではなく、それでいていざ實踐となるとあまり歓迎されないものはある。また注射か、またレントゲンか、また消毒か、いつた衛生係の仕事がないから、ぶら／＼あつちこつち飛びまわつてゐるのだらう。

何と云ふことだらう。およそ微生物との戦いに於て仕事はなくなる事が考えられるのだらうか。

結核王国と云われる日本中でも種々農村地帯に、特に結核が多いことをどう考へておるのだらうか。

可愛い子供のおなかの中には、蛔虫や十二指腸虫がうよ／＼してゐる。ジフテリア、百日咳で算し一命を失ふことすらしばしば聞くではないか。今年も小出、倉俣から平澤の端まで十數人の赤痢患者を出したではないか。

環境衛生事業の重要性はこゝにあるのだ。だてに係員はだてにとび回つてゐるのだらうか。だてに

年賀廻禮は玄關先で、年始よせはやめよう。環境衛生活動に想を込めて、軌道に乗せよう。

残念 (この一年から)

いよ／＼年の暮です。正月支度はいかがです。新巻サケの値のいゝこととでも手が出ませんよ。昔はねえ、安くて手帳におかすにしたもんです。

さんざ取つたからサケも減つたでしょうがね。北の海に取りに行くにも、人様の海で漁をするのは日ソ交渉とか協定とか面倒なん

だそりで、塩サケくらいのん氣に食べられるとよござんすがねえ。

おや砂川でそんなひどい騒ぎがありましたか、日本人の同志討ちじやありませんか。政府はどんな氣なん

でしようね。町村合併にもた／＼と目の前しか見ないで動くつて家の子が大人を批判するんですよ。

ませんもの、ハンガリーやエジプトみたいに頭からバクダンを落されたいだけ、今の所いと思つてますよ。

おや砂川でそんなひどい騒ぎがありましたか、日本人の同志討ちじやありませんか。政府はどんな氣なん

でしようね。町村合併にもた／＼と目の前しか見ないで動くつて家の子が大人を批判するんですよ。

ませんもの、ハンガリーやエジプトみたいに頭からバクダンを落されたいだけ、今の所いと思つてますよ。

おや砂川でそんなひどい騒ぎがありましたか、日本人の同志討ちじやありませんか。政府はどんな氣なん

火の用心

とは氣の毒だ、人間共は互いに支え合つて仲良く集まつて生きなさいや、幸福も進歩も無いと云うのに「それは反對」を全く以つて「ゲロ」(果敢カエルばかりか)するで「と人の視察ぶりは不幸と退歩へ引つくりかえるわけかねえ、そうして人を見たらテキカと思ひ、人相悪くなるばかりとは、

鼻かぜの妙薬

ネギの白根を小さくきざんで大サシ一杯のヨーヨー

蛙のアンテナ

「おいらあつけん何、長つ話があらんだべ」

「ろくでもねえ仲間んなつて何してんだ、ひとりごとつことかせぐがたいしよ」

「仲が、やんそらな、あのしよは、げえもねえ」

「ガル(おい)、社会的動物様の中に、あゝ、う狭い根性のわからずやがいる」

鼻かぜの妙薬

ネギの白根を小さくきざんで大サシ一杯のヨーヨー